

スリリングなナビゲーション。そして疾走感。

オリエンテーリングの新しい楽しさが詰った全日本パークオリエンテーリング大会が立川で開催された。

2002年6月1日(土)
東京都立川市昭和記念公園

子供もすなる、パーク0

今から3年前の1999年。パークワールドツアー東京大会がここ昭和記念公園で開催され、世界のトップ選手が駆けぬけました。その記憶が残る舞台を左手に眺めながら歩いて会場に到着します。

昭和記念公園は元基地のあった場所だそうで、今では東京近郊の広大な緑地。国営公園として整備されており、入場には大人¥400の料金が必要です。

大会の行われた6月1日の土曜日は梅雨入り前のピカピカ天気。広大な公園はたくさんの来園者で賑わっています。

今回のパーク0大会も子供連れで参加しました。息子のトモヨシ君、いよいよ初めて一人でコースに挑戦です。このように子供を安心して出場させることができるにも、トレインの安全が確保されているパーク0ならではのことで。また靴や服が汚れないので、参加させる親としてもかなり抵抗が少ないですね。このため、荷物が最小限になるというのもパーク0のいいところです。

トモヨシ君、初心者用の2kmのNコースを40分かかって回ってきました。あの複雑な昭和記念公園の地図を読みながらよくがんばってきたと思います。

特に大きく迷うことはなかったようですが、マップコンタクトに時間がかかったようでした。

いつもは家族組とか、そういったカテゴリがあるので、上位表彰されることが多いのですが今回はNクラス一本だけということで、そう甘くはありません。上位にも、速報にも出ることなく、本人ちょっとがっかりしたようです。

リスク、そしてスピード

さて私もM35Aクラスを走らせてもらいました。

平坦な4.2kmのコースに21個のコントロール。コントロールとコントロールの間が短いため、どんどん地図を読んで、どんどんルート決定を行わなくてはなりません。こういったコースで競う形態を、最近ではオリエンテーリングのスプリント種目といいます。

コントロールの間は出来る限りトップスピードを維持するのが、スプリント種目のポイントです。次々と現れる展開に対して的確な判断を下し、スピードコントロールを意識しながらフィニッシュまでを一気に走り抜ける感覚。リスクとスピード、そしてセルフコントロール。レース時間が短いとは言え、非常に集中した時間でした。

E-cardを使用した各コントロール間のラップタイムが、後日公開されました。

その結果を見る限り、私は短い集中力が必要なレッグでは上位に引けをとらないレースが出来ていますが、やはり走りの部分がまだまだ弱い。しかしミス率は全参加者では最低なので、走りの弱さを考えればかなりミスが少ないレース展開になっています。

クラシカルなレースでは、一つのレッグでいろいろな課題が要求されますが、スプリントのレースでは一つのレッグで要求される課題は、比較的少ないためこのラップを比較すれば、自分はどの分野に強く、その分野が弱いのかははっきりしてきます。これが判ると、「じゃ、次回はここを改善しよう」という意識が生まれてきますね。



今回走った M35A のコースの一部。

公園特有のトリッキーな遊歩道を使用したコースは、とってもスリリング。随所でとっさの判断が求められる。

さて、私たちがこうした一般クラスに参加しているあいだに、選手権クラスは予選が行われていました。こちらもワンミスで予選落ちになる選手もいて、スプリントの厳しさを見せるとともに決勝進出が難しいとされていた選手でも、流れさえ掴んでしまえば、決勝進出を手にすることができるというスリリングな一面も見せていました。

そして一般クラスの競技が終了して、女子選手権決勝レース、男子選手権決勝レースと続きます。

興味はあるのですが、さすがに子供は一ヶ所にいるのがいやになったらしくて、遊具で遊んだりしてましたが、男子選手権のスタート前に会場を後にしました。



公園出口に向かって歩いていると、決勝に出場する選手がウォーミングアップを行っています。中でも松澤くんが公園出口までの道を、感触を確かめるように走っていたのが印象的でした。

さて、選手権決勝の結果は以下の通り。

男子選手権決勝 4000m

1	松澤俊行	アベックス	0:17:31
2	鹿島田浩二	渋谷で走る会	0:17:44
3	村越 真	静岡OLC	0:18:24
4	篠原岳夫	埼玉県川越市	0:18:32
5	山口大助	E S 関東C	0:20:00
6	許田重治	Team白樺	0:20:26
7	小林康浩	大阪OLC	0:20:27
8	小泉成行	筑波大OL愛好会	0:20:34
9	小河原成哲	神奈川県横浜市	0:20:36
10	平井太郎	東京都新宿区	0:20:58

女子選手権決勝 3100m

1	番場洋子	京大ゾンビーズ	0:18:02
2	宮内佐季子	京大OLC	0:18:32
3	木植早生	地図と森の会	0:18:44
4	田島利佳	みちの会	0:18:50
5	加納尚子	朱雀OK	0:19:11
6	渡辺円香	E S 関東C	0:19:55
7	宮川祐子	筑波大OB愛好会	0:20:21
8	塩田美佐	筑波Mocco	0:20:22
9	金並由香	渋谷で走る会	0:20:37
10	志村直子	かすいち倶楽部	0:21:25



優勝を決めた番場洋子